

平成 26 年度 文学部プロジェクト研究 研究活動報告書

	職名	教授	氏名(代表者)	今津勝紀	配分額	312,000 円
プロジェクト名	岡山大学病院にかかる診療記録類の保存と活用むけた資料的基礎研究					
目的と活動の概要	<p>[研究の目的]</p> <p>本学は医療を一つの柱とした学都・岡山の創造をめざし、全学をあげて教育・研究・診療の諸活動に取り組んでいるが、地域において本学が如何なる役割を果たしてきたのか、その足跡を検証できるようにしておくことが肝要である。病院の診療記録なども重要な歴史資料となりうるはずだが、医事資料は、これまで資料学の中に位置づけられてこなかった。そのため診療記録など医事資料の資料化がまず課題となる。そのうえで医事資料を活用した研究を模索したい。本研究は、何よりも資料学の可能性を広げるものであり、ひいては異分野融合を見据えた学際的新分野の創出の可能性を秘めている。</p> <p>[活動の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津島キャンパスの旧ボイラー棟に収納されている岡山大学病院の診療記録類について、将来の活用を見据えて、どのように整理するか基礎的な資料学的検討を行う。 ・保存状況の確認と資料整理。なお、医学的情報については、環境生命科学研究所の津田英敏教授にアドバイスをいただいた。 ・研究会の実施 日時：2015 年 1 月 23 日（金）16 : 00 ~ 18 : 00 場所：岡山大学文法経 1 号館 2F 文学部会議室 報告：廣川和花（大阪大学）「医療記録の保存と活用を目指して：学史研究立場から」 近代医学史研究者として著名な廣川氏をお招きし、ハンセン病関係資料を分析した経験をふまえて、診療記録類アーカイブの現状と問題点を報告いただいた。学内外の研究者の参加を得て、岡大病院の診療記録類の保存と活用にむけて検討すべき点が明確になった。 <p>[成果と今後の展望]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱詰めされた段ボールのなかには、崩壊し始めているものがあり、並べ替えや詰め直しの必要なものが確認された。今後は安全を確保しつつ保全のための小規模な作業を定期的に行うことがのぞまれる。 ・研究会の模様や取り組みについて 2015 年 2 月 27 日『山陽新聞』にて報道された。この報道をうけて、取り組み自体についての取材申し込み、アーカイブを取り扱う業者からの問い合わせ、医療記録の内容についての問い合わせなどがあり、反響も大きい。岡山大学としてこの医療記録をどう位置づけるのか早急に明確化する必要があるだろう。 					
関係教員等 (代表者※印)	氏名	所属	職名	役割分担		
	今津 勝紀 (※)	文学部	(歴史文化学)・教授	日本史 (資料保存)		
	倉地 克直	文学部	(歴史文化学)・教授	日本史 (資料保存)		
	久野 修義	文学部	(歴史文化学)・教授	日本史 (資料保存)		
	藤井 和佐	文学部	(行動科学)・教授	社会学 (資料保存)		
	本村 昌文	文学部	(哲学芸術学)・准教授	日本思想史 (大学史)		
	中村 誠	法学部	・教授	法学 (個人情報保護)		
	佐藤 法仁	教育研究プログラム戦略本部・戦略的プログラム支援ユニット・URA		医学 (異分野融合研究の調整)		